



2050年の未来予想図ワークショップ 実施報告

2021年3月3日

令和2年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト最終報告会

株式会社 かいはずマネジメント・コンサルティング

一般社団法人 森と未来



1. 目的




【対象】
中学生
高校生

【未来予想図】とは
SDGsの趣旨を参考に、地域、日本、世界、地球が2050年にどのようなになっているか、
その中で、将来の自分たちと森や都市の関係をどうしていきたいか、地域はどうなってほしいかを描く

- ▶ 森林と自分たちの暮らしの関わりを「自分ゴト」化
- ▶ 森林に対する理解・関心を高める

2. 開催概要

生活圏内における森林の有無や、日常的な森林との関わりに留意し、5地域を選定。

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市	静岡県掛川市	長野県根羽村
開催日	10月29日	11月28日	12月1日	12月5日	12月13日
時間（全体/WS）	120分/120分	1日/150分	100分/100分	1日/150分	1日/120分
参加者	中学生20名	中学生19名	中学生40名	高校生12名	小・中学生14名
森林体験	なし	あり 	なし	あり 	あり 
成果物	模造紙、画用紙に絵や言葉で表現				

3. 実施方針

①身近な森林とSDGsへのつながり、
自らできるアクションを考える。

地域の森林体験や自らの森林体験の振り返りを行い、自らの30年後をリアルに想像する。

②森林との様々なかかわり方を知り、
視野を拓ける

森林サービス産業や最新技術を活用したマテリアル利用など、森林の新たな可能性を紹介。

ワークショッププログラム（篠栗町での開催例）

内容（150分）	時間
ワークショップ導入（都内開催校のメッセージ視聴）地域の案内人、ファシリテーター紹介、フォレストバトン・パスの説明	20分
ワーク①森の印象	10分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	5分
<休憩>	5分
アイデア発表（各グループ3分）	20分
コメント・質疑応答	10分
撮影の説明	5分
ワーク④フォレストバトン・メッセージまとめ	15分
フォレストバトンメッセージ(各グループ1分) 撮影	20分
閉会挨拶 / アンケート	15分

3. 実施方針

ワークショッププログラム（篠栗町での開催例）

③フォレストバトン・パス

理想の未来の実現のためのアイデアやアクションを、次にバトンを渡す学生に向けたメッセージとともに発表・撮影。動画は編集し、次回開催校で放映する。

各地のメッセージ動画をユーチューブにアップロードし、一般公開。各地の生徒が相互のアイデアを知ること、気づき生まれ、アクションを起こす動機付けにもつながることを狙う。

④継続的实施に向けた体制を考察

教育関係者等にコメントをいただき、学校のカリキュラム内で実施する上での検討事項やハードルを明らかにする。地域主体で実施できるよう、ノウハウを「ワークショップ実施マニュアル」に整理。

内容（150分）	時間
ワークショップ導入（都内開催校のメッセージ視聴）地域の案内人、ファシリテーター紹介、フォレストバトン・パスの説明	20分
ワーク①森の印象	10分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	5分
<休憩>	5分
アイデア発表（各グループ3分）	20分
コメント・質疑応答	10分
撮影の説明	5分
ワーク④フォレストバトン・メッセージまとめ	15分
フォレストバトンメッセージ(各グループ1分)撮影	20分
閉会挨拶 / アンケート	15分

森林体験の様子（福岡県篠栗町での森林セラピー）

森の風 篠栗森の案内人
PTA、篠栗町教育委員会
篠栗町観光協会等
の協力のもと実施



修験道と関連の深い歴史
ある森を、森林セラピーガイ
ドの案内のもと歩く



大杉の前で、森からの
メッセージを書き留める



森に寝転び、
空を眺める



木に抱きつい
てみる

森林体験の様子（静岡県掛川市での森林施業現場視察）

掛川市森林組合、地域づくりに携わる民間企業の協力のもと実施



高性能林業機械による作業見学



伐倒作業の説明



植林された伐皆跡地



電動アシスト付き自転車で林内へ



スウェディッシュトーチ



電動薪割り機を体験



人力による薪割りを体験

森林体験の様子（長野県根羽村での森林散策）

根羽学園学生実行委員会、
根羽村教育委員会、根羽村猟友会、
（一社）ねばのもり等の協力のもと実施



村内の森の散策



森からツタや葉を採集



ツタを使って縄跳び



森の木や葉を使って、リースやフォレストボタンを制作

フォレストバトン・メッセージ動画放映 (3分)



4. 成果物（一例）

① 森の印象

- いやし、歴史、音、神秘、リラックス
- チップ上を歩くと心が落ち着く。
- 苔がつるつる滑る。
- 静かで鳥の鳴き声が聞こえる。
- 針葉樹はレモンみたいな香りがする。
- 緑色で目がよくなりそう。

② 未来の森

<ビジョン>

- 高齢者も子どもも安心して楽しめる森
- 動物が安心して過ごせるように、安全な場所をつくる。
- 子どもの頃に夢見た秘密基地をつくる。



4. 成果物（一例）

＜森林サービス産業利用＞

- 森のアトラクション：
- 透明なエレベーターで若杉山の頂上に上り、若杉山の頂上から米の山まではすべり台でつなぐ。
- 頂上にカフェをつくる。
- 仕事場として利用できるツリーハウス
- 色んな果物や山菜を植えて、採って食べながら登る。
- 昆虫園をつくる。1時間～円で、昆虫取り放題。



4. 成果物（一例）

<木材の活用>

- ヒノキ、スギからエッセンシャルオイルを作り、加湿器で使う。保湿コスメ。
- 木を丸々お風呂に入れる。
- ヒノキのスモークチップを売った収益で新しい苗木を買い、木が少ない地域に提供する。



<未来の技術>

- ドローンによる効率的な森林伐採・管理。
- 都会人もハンディキャップを持つ人も森林を感じられるバリアフリーの森林空間
- VR森林案内ロボットで人件費削減。
- 立体音で森を表現し、どこでも森を感じられるように。
- 自然や生物がしゃべる
- 空飛ぶ車やバイクで楽しむ

4. 成果物（一例）

③未来予想図実現へのアクション

- 森に行って、森を好きになる。
- 森について知る。
- 森にゴミを捨てない。ゴミを拾う。
- まずは林業を身近にすることで、関心をもたせ、支持を集める。
- 子ども世代にも受けが良くなり、担い手が増える。
- 間伐で森を整備することで誰もが来やすい場所にする。
- ツリーハウスが作れるような大きな木を育てるために、間伐作業や植林をする。

<参加生徒による感想>

8割以上の参加者が、
新たな気づきや学びを得たと回答

気づきや学びの例：

- 身近な自然への関心、課題の発見
- 森を知り、関わっていくことの大切さ
- 森林の新たな可能性
- グループワークや発表方法に関する学び

7割以上の参加者が、“森林についてもっと
知りたい、調べてみたいと思った”と回答。

関心内容の例：

- 世界・日本の森林の現状や生態系保全、森林保全活動
- 森林の利活用の現状と新たな取組
- ワークショップで出たアイデアに関連するもの
- 他の地域の森林環境や取組

➤ **森林体験やワークショップが、森林との関わりを自分ゴト化するきっかけに**

5. 提言

①継続的な実施に向けて

開催時間の確保

- 学校は、総合的な学習の時間、教科の時間、課外活動、部活動等の時間を、状況と目的に応じて確保。
- 授業時間内に行う場合、前年度から計画的に時間を確保する。

生徒によるプロジェクトの拡大

- 参加学生のオンラインでの交流の場を設定し、他地域との連携を拡大。
- 次年度のワークショップの開催先の募集や、企画・運営、成果物の整理や動画編集等も生徒主体で行っていけるよう、ノウハウを蓄積する。

関係者の協力

- 森林体験の支援や専門知見を有する人材など、地域ぐるみで森林環境教育を行う体制構築が重要。
- 体制を担保する資金の確保を行う。

5. 提言

②目的に応じたプログラム構成の検討

森林体験の有無を含めたプログラム構成は、下表のメリット、デメリットを参考に、森林の有する多面的機能からテーマを選択するなど、生徒に身に付けさせたい能力や目的次第で判断する。

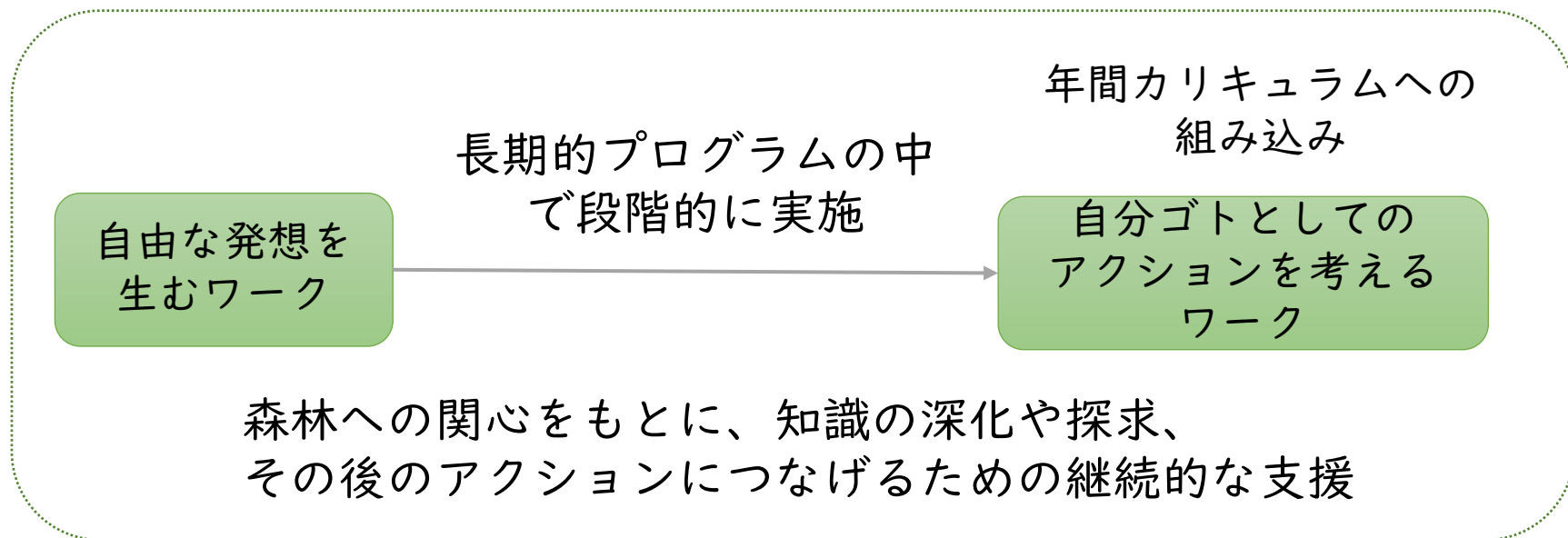
また、森林の文化的側面や保健・レクリエーション分野だけでなく、木材利用など産業としての林業に着目することも重要である。

ワークショップと組み合わせることで森林体験を行うことによるメリット/デメリットと目的の設定

体験	目的	メリット	デメリット
あり	<u>身近な森林について、具体的なアクションをとれるようになる。</u> <u>課題解決方法を考えてもらう。</u>	<u>現場感覚に基づき、具体的な課題や可能性を考察できる。</u>	<u>発想が体験内容に縛られがちになる。</u>
なし	<u>森林の新たな可能性に気づかせ、興味を持ってもらう。</u> <u>森林に関心をもち、足を運ぶきっかけを得てもらう。</u>	<u>現実の問題に捕らわれず、自由な発想ができる</u>	<u>森林との関わりを「自分ごと」として捉えにくい。</u> <u>森林との接点がほとんどない場合、発想は限定されかねない。</u>

5. 提言

③長期的なプログラムデザイン



ご清聴ありがとうございました